



ワット・アルン

ワット・アルンの名で親しまれているワット・アルン・ラーチャワララームは、チャオプラヤー川の西岸沿いにあるバンコク三大寺院の1つで、10バーツ硬貨のデザインにもなっています。この寺院は少なくとも17世紀頃には存在していたと言われていますが、特徴的なプラン（尖塔）は19世紀初頭に建てられたとされています。ちなみに、「ワット」には寺院、「アルン」には暁や夜明けという意味があります。その名のとおりワット・アルンは夜明けの象徴とされており、写真のような夜景だけでなく、朝日に照らされた姿も美しく、訪れた人々を魅了します。



世界の地域から

タイ・バンコク（ワット・アルン、ワット・ポー）



ワット・ポー

涅槃（ねはん）寺とも呼ばれるワット・ポーは、古くからある王宮寺院で、ワット・アルンやワット・プラ・ケオと並ぶバンコク三大寺院の1つです。写真にある涅槃仏はラーマ3世の治世時（1824～1851年）に造立された仏像で、その大きさは全長46m、高さ15mもあります。その大きな特徴といえる足の裏には仏教の世界観を表した108の図が螺鈿（らでん）細工（研磨した貝殻を模様にはめ込む技法）によって描かれています。また、ラーマ3世によって医学の府とされたワット・ポーは、ユネスコ無形文化遺産であるタイ古式マッサージの総本山となっています。